



パキスタン

BOP層実態調査レポート

パキスタン・イスラム共和国 - 基礎データ -

面積	79万6,096平方キロメートル
人口	1億9,171万人 (2014年 計画・開発・改革省による予測)
首都	イスラマバード 人口 147万9,000人 (同上)
実質GDP成長率	4.14% (2014年)
名目GDP総額	2,501億4,000万ドル (2014年)
一人当たりの名目GDP	1,342.73ドル (2014年)
対米ドル為替レート	101.1ルピー (2014年平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報「パキスタン基本情報 概況」(2016年6月更新)

- 調査対象 運輸(貨物輸送)事情
- 調査月日 2015年10月

◆ はじめに

パキスタンは、人口約1億9,000万人、面積796,095 km²(36位)を有し、他の国と同様、輸送は道路輸送と鉄道、空輸が中心。国土の南西部分がアラビア海に面し、オマーン湾の出口に位置して、1,046kmの海岸線を有している。国際貿易港としてカラチ、カシム(カラチ港の一部を成す)、グワーダル(バローチスターン州)の3つの港を持ち、3港に繋がる道路及び鉄道網、空路(カラチ港、カシム港からジンナー国際空港まで22km)を通じて輸入貨物が全国に向けて輸送され、また輸出貨物が積み出される。

◆ 輸入貨物の物流と手続きの流れ

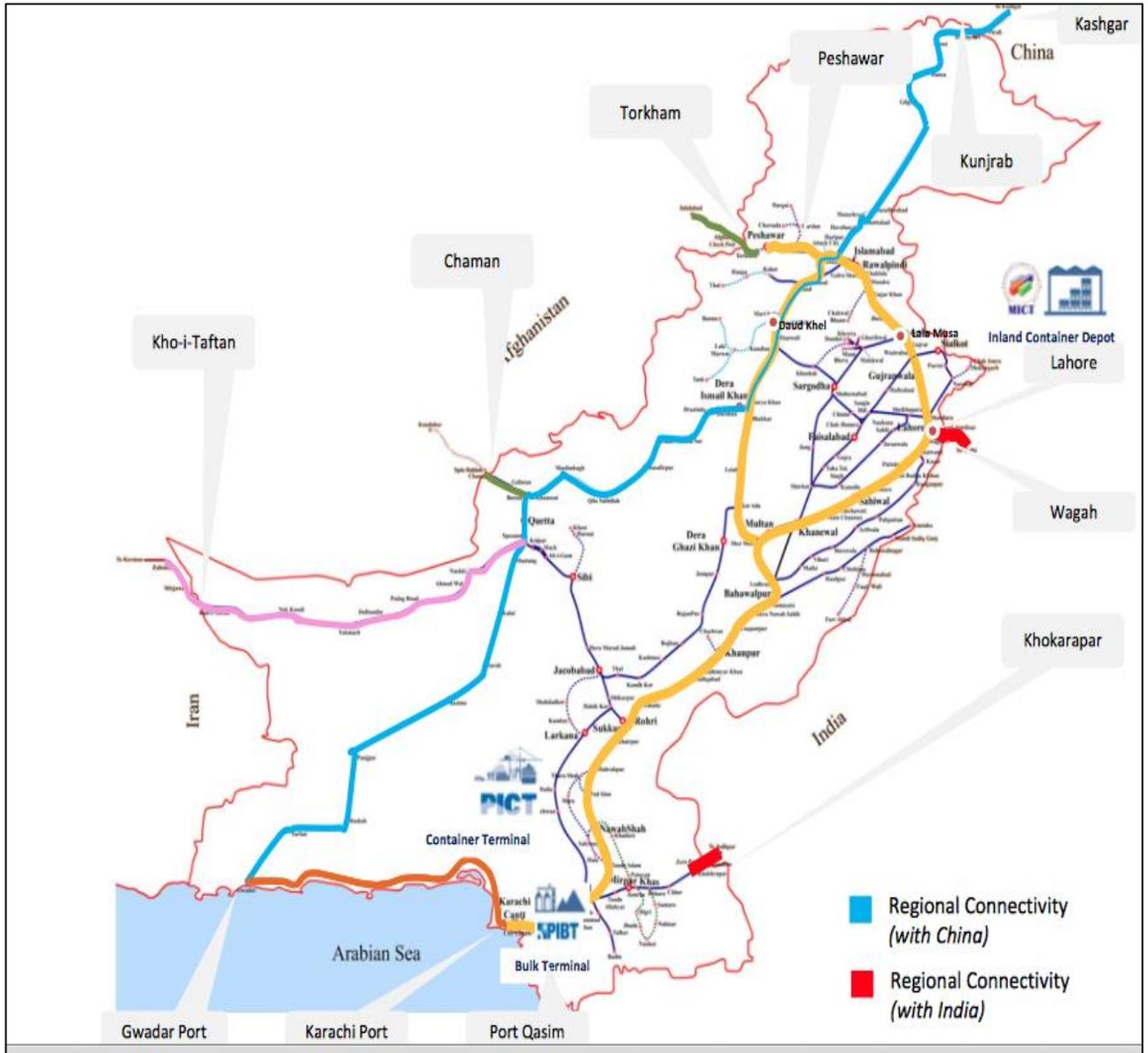
輸入品は通関後コンテナで荷受人の指定する倉庫に運ばれ、流通業者や卸・小売業者に配送されるが、流通業者等の倉庫に直送される場合もある。輸入品物流の流れは概ね以下のとおり。



1. インボイスと梱包リストを添えて荷送り人からDHLなど運送会社へ荷を渡す。
2. 通関申告書や関税支払い指示書などの必要書類を運送会社から通関業者に送り、通関業者がパキスタン税関コンピュータシステム(PACCS)によって通関手続き申請を行う。
3. 通関申請を受理した後、関税徴収官が通関業者に貨物引取り日を通知し、必要に応じて関税など諸税を支払って荷を引き取る。
4. 有償貨物の輸入に際しては、上記の他に売上税支払者及び輸入者登録、納税者番号の証明書などが必要となる。



◆ 輸入貨物を中心とした陸上輸送ルート



同国は東部がインド、北西部がアフガニスタン、南西部がイラン、北東部が中国と国境を接しており、立地上、戦略的に重要な位置にある。これら周辺国との輸送は現状主に道路によっており、中国の新疆ウイグル自治区最西端に接する国境のクンジュラフ峠(海拔4,733m。キルギットバルチスタン州)からグワダル港までの回廊(上図青線)が現在中国によって整備を進められている。インドとは、分離独立前からワグアー(パンジャブ州。上図上の赤線)およびコクラパー(シンド州。上図下の赤線)の2ルートが国境を越えて通じていたが、現在開かれているのはワグアー検問所のみとなっている。



<貨物トラック>



<コンテナ・トレーラー>



<タンクローリー>

◆ 主な物流拠点

- ・カラチ(シンド州)
- ・ラホール(パンジャブ州)
- ・ラワルピンディ、イスラマバード (イスラマバード首都圏)
- ・ファイサラバード(パンジャブ州)
- ・シアルコット(パンジャブ州。欧州向けスポーツ用品や皮革製品、医療器具生産基地)

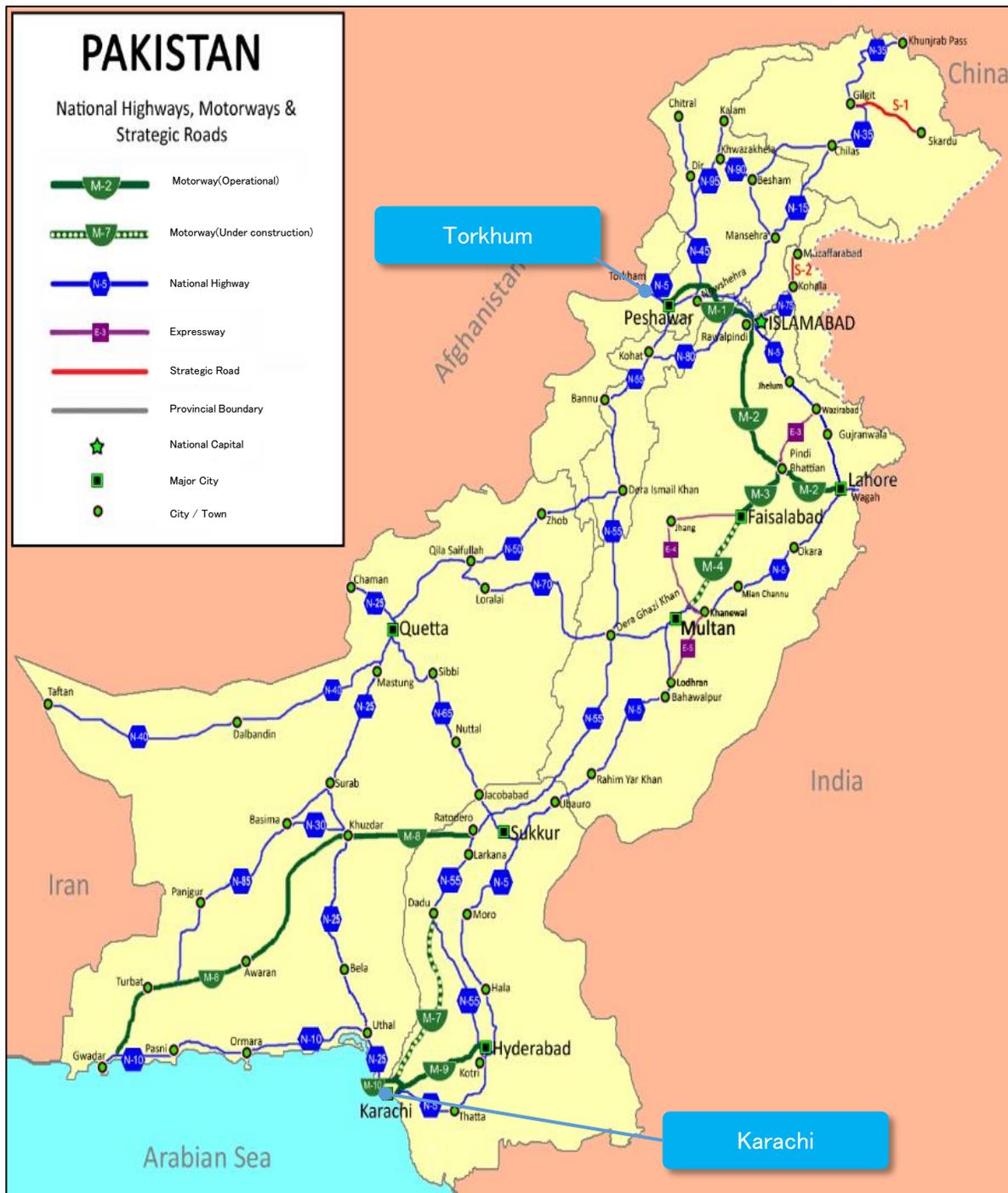
上記の各拠点は全て高速道路や自動車専用道路に接続しており、全国各地への貨物輸送を効率的に行える。世界では、一般的に鉄道が最も便利で安い物流手段であるが、パキスタンでは、鉄道に比べて道路輸送のほうが常に信頼が置けるため、主に道路輸送によっている。アフガニスタンに駐屯するNATO軍への物資補給も、主に鉄道より道路輸送によっている。



パキスタン

BOP層実態調査レポート

主要都市間を結ぶ主要幹線道路、高速・自動車道路





◆ 鉄道

パキスタンの鉄道は、インドから独立する以前の1886年に建設され、鉄道省によって管理運営されており、国鉄の本部はパンジャブ州ラホールに置かれている。総延長7,791kmの路線を有し、幹線はアフガニスタンとの国境である連邦直轄部族地域（FATA。カイバル・パクトウンガ州の西）のTorkhamからカラチに至っている。政府は鉄道網の拡張計画を進めており、小規模な改良は行われているが、鉄道網の殆どはパキスタン独立当時にあったものから然したる発展はなく、開発の初期段階にとどまっている。国内の物流拠点は全て線路と連結しているが、鉄路を通じて輸送される物資は、その殆どが軍ないし政府関係機関の物資に限られている。

パキスタン鉄道の概要

	単位	2012～2013年	2013～2014年
路線延長	Km	7,791	7,791
線路延長(複線等含む)	Kms	11,755	11,778
機関車	台数	493	421
客車	台数	1,540	1,434
その他の客車	台数	245	262
貨物車	台数	16,635	16,179
駅	ヶ所	558	527

● 鉄道貨物輸送

	単位	2012～2013年	2013～2014年
貨物列車本数	本数	1,414	2,172
コンテナ輸送	1,000km	729	1,460
有蓋貨車・タンク貨車等	1,000km	35,065	56,160
貨客車運行路線延長	1,000km	578,088	658,748

出所：パキスタンの鉄道年鑑2014年版

現状、アフガニスタン国境まで伸びている線路は1本であり、Torkham から国境までの延線が計画されているが、NATOも国境からのアフガン国内の線路を整備しようとせず、パキスタンからの物資輸送を道路によっている。そのため、重量物の自動車輸送による路面の痛みが激しく、道路の補修に要する経費がかさんでいる。



<コンテナ貨車>



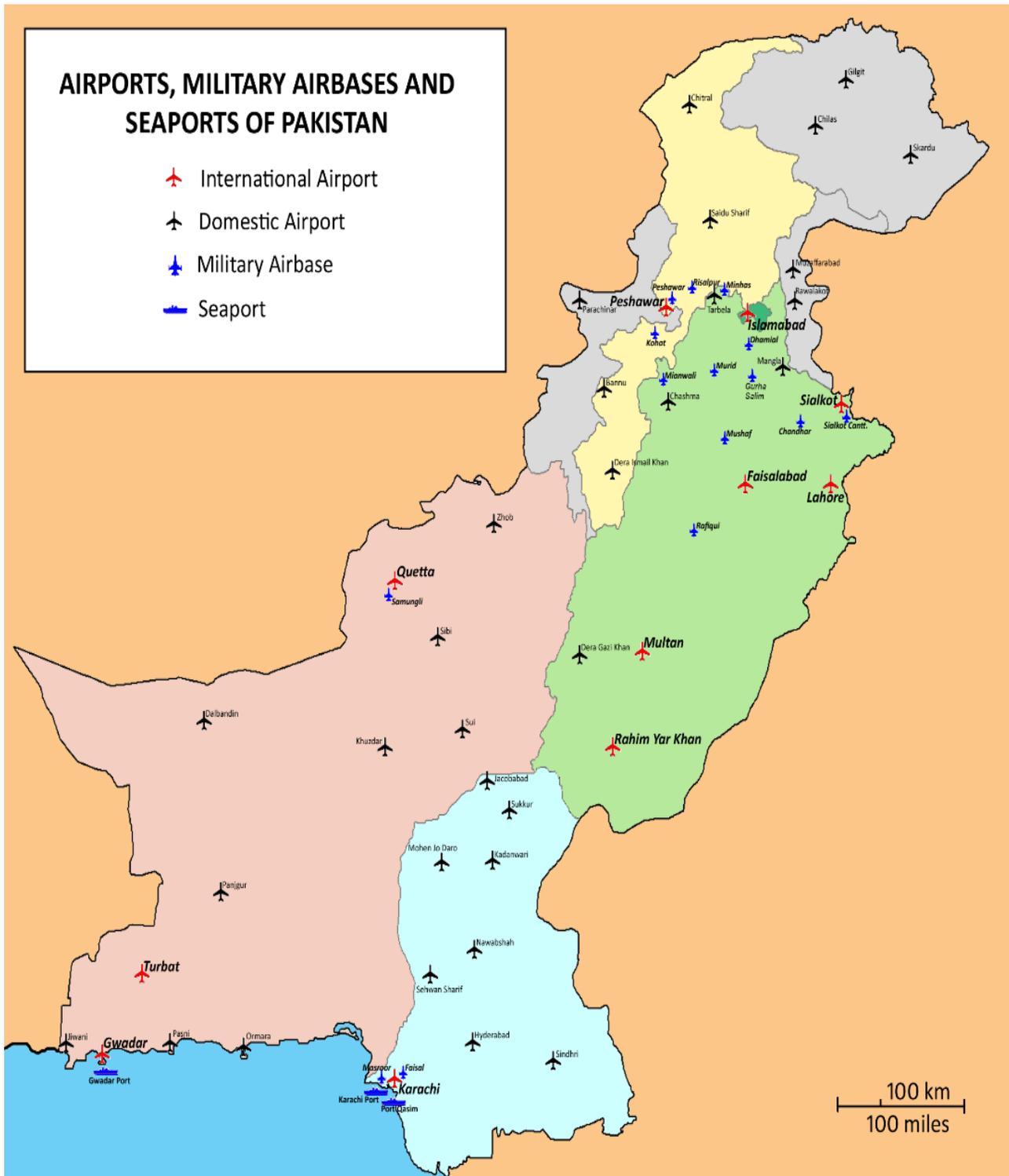
<客車>

◆ 航空輸送

パキスタン国内の一般航空貨物輸送は、主にパキスタン航空によっている。国外との輸出入貨物空輸は、パキスタン航空のほかエミレーツやガルフなど外国の航空会社が参与している。



国内の大小貨物空港(空軍基地を含む)





貨物輸送トラック



<パキスタン航空>



<DHL>

◆ 運送業者

パキスタンには国際貨物輸送協会 (Pakistan International Freight Forwarders Association (PIFFA)) に加盟している同国の貨物扱い業者576社と、非加盟の業者が数社あり、以下の7都市を拠点として全国をカバーしている。

PIFFA加盟業者数

所在地	社数
カラチ(シンド州)	420
ラホール(パンジャブ州)	93
シアルコット(パンジャブ州)	33
イスラマバード	15
クエッタ(バローチスタン州)	10
ファイサラーバード(パンジャブ州)	4
ペシャワール(KPK 注)	1
注: KPK: カイバル・パクトゥンクワ州	合計 576

国内の運送業者には、トラックなど自社の輸送手段を持っているものと、車両等は持たず手配だけを行っている業者がある。国際貨物取り扱い業者の大手はパキスタン航空やDHL、Agility(下記注参照)等で、国際貨物業者の殆どが通関及び関税支払いに要する書類の作成や手続きの代行を行っている。この外、物流を管轄する政府関係機関として全国物流公社がある(下記注参照)。

(注)

・Agility Logistics, Ltd.

約100ヶ国にネットワークを有する国内大手総合物流・倉庫企業

・全国物流公社 (National Logistics Cell(NLC))

NLCは、1978年カラチ港での貨物滞貨によって発生した食糧危機に伴う小麦等の緊急輸送を契機に設立された政府全額出資組織。燃料などの液体を含む全ての物資輸送を管轄し、それら物資に係わる鉄道、自動車等の輸送手段についての関係当局間調整・監督、輸入生活必需物資および輸出物資等の自ら行う輸送、主要国道の整備などを行っている。



◆ 調査を終えて

- パキスタンでは、鉄道に比べ道路輸送インフラのほうが整備されている。航空輸送は、かさばらず軽量な少量貨物を中心に増えつつある。
- インド、中国、アフガニスタン、イランと国境を接しており、戦略的に中央アジアにおいて極めて重要な立地にある。
- 中国が建設している国境のクンジュラブ峠からグワーダル港までの輸送ルートが完成すれば、中国との物資往来に要している時間とコストが大幅に省ける。
- 現状、国境を越えて鉄道が繋がっているのはイランだけであるが、国境から先が途切れているアフガニスタン国内の線路が整備されれば、アフガン各地との物資往来が可能となる。
- グワーダル港は現在中国によって整備中であるが、商業港としてフル稼働に入ればカラチ及びカシムの両港にかかっている負荷が軽減され、国内の物流円滑化に大きく貢献することと思われる。そうした国内産業へのメリットも然ることながら、グワーダル港が商業港として機能するようになれば、中東及び南西アジア地域のハブ港としてUAEのジュベル・アリ港やオマーンのサラール港、ドゥクム港（現在建設中）に競合し得る貨物処理能力をパキスタンの港湾が備えることとなる。